



子供の広場



ひまわり幼稚園 ～体育ローテーション～

ひまわり幼稚園では、毎朝30分園児たちが運動場に出て走ったり、跳び箱や鉄棒、すべりだいなどの道具を使って体をきたえる、体育ローテーションという取り組みをしています。

朝、音楽が鳴ると、子供たちは運動場に集まり、みんなでランニングをしたあと、跳び箱、鉄棒、アスレチックなどを始めます。先生に言われてするのはなく、自分たちでテキパキとした行動。

先生方の話によると「毎日少しずつ体を動かすことで、小学校に入るころにはみんなたくましくなっていますよ。風邪なんかもほとんどひかなくなつて、お母さんたちも喜んでくれます」と効果が現れているようです。

子供たちにも好評で「おもしろい。初めはお腹が痛かったけど今は平気。かけっこが速くなった」と元気に話してくれました。



12月27日に熊本県で行われた第1回全国中学校駅伝大会に、高知県代表として出場した香長中駅伝部。大会にまつわる思い出、感想を主将の青木善孝君に、代表して書いてもらいました。

CLUB くらぶ

全国大会を終えて

青木善孝

昨年の高新駅伝大会が終わってから一年間、毎日の朝練習、夏休みの厳しい練習、そしてシーズンに入ってからの練習と、みんなが一丸となって走り続けてきた。そして、その結果が、全国大会出場という名誉な形であられた。みんなので夢にまで見たことだったので、うれしさや感動もはんばじやなかった。そして、熊本では順位を一番でも多く上げることが目標に、また、毎日の練習にはげんだ。

そして出発の日、高知県の代表ということを持ちに思い、胸を張って空港をたつた。熊本に入つて、他の県の練習などを見ていると、やはりすごい、レベルが違いすぎた。でも、「ここまで来たらもう何もすることはない。あとは体調に気をつけて、ベストの状態で大大会にのぞむだけだ」と、適度な緊張を呆らながらも、自分たちを少しリラックスさせていた。

そして大会当日、エースの宇賀



君が風邪のため出場できなくなったので、島中君がかわりに走るようになった。結果は四十八校中四十七位だった。ゴールしてから泣いた。はじめて、くやし涙を流した。いつもユニフォームに輝いている「香長」という文字が、とても小さく見えた。

「一番でも上位に」「一人が一番ずつ順位を上げる」そんな甘い考えは、全国というあつい壁には通用しなかった。でも僕達は順位よりもっと大切なものを得たような気がする。

「友達を、チームメイトを信頼する」大井先生がいつも言っていた。最も大切なことを、改めて実感させられた気がする。順位は良くなかったけど、とてもすばらしい経験ができた。来年も二年生や一年生に、このすばらしい感動を味わってもらいたい。最後になりましたが、応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。